

人の心を揺さぶる舞い

芸術としての創作ダンスを楽しむことに

若い情熱を捧げる菊華高等学校ダンス部。

夏に開かれる全国大会での入選・入賞をめざし、
今日も華麗に、元気に踊っています。名前だけの存在から
全国の舞台で舞うチームへ

昨年度、第29回「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」創作コンクール部門出場・参加発表部門出演、第8回「NFC・全国ハイスクールダンスコンペティション」ソレイユ賞受賞、第10回「日本高校ダンス部ダンススタジアム新人戦」スモーククラス準優勝と、華々しい経歴を積み菊華高校ダンス部。

つい5年ほど前まで、名前だけが存在する部でした。本格的に動き出したのは、2012年4月。創作ダンス経験者・田島志織先生の赴任がきっかけです。「私自身、高校で創作ダンスを経験し、人間的に成長できました。仲間と踊ることの楽しさ

と、学業以外での成長を叶える充実感を伝えたくて、部を活性化させようと思ったのです」。

まずは部員集めからスタート。1年生21人が集まりました。しかし、基礎練習ばかりの毎日に、「こんなはずでは……」と華やかなイメージ



「部員の踊りを見て、涙がこぼれたことがあります。表現力が上がってきたので、今年の大会は期待したいです」と田島志織先生（右）。養護教諭の児玉みほ里先生も、もうひとりの顧問として田島先生と部員をサポート

とのギャップに、多くの部員が去っていきます。「経験者はもちろん、初心者にとつて基礎はもつとも重要。その点をしっかりと理解させることが大変でした」と田島先生は当時を振り返ります。

創部の年、最終的に残ったのはわずか6人。初代メンバーが3年生になった時、「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（以下ダンスフェス）」のコンクール部門という大舞台に出場。残念ながら予選突破はなりませんでした。部は大きな一歩を踏み出しました。

右) 部員たちは皆踊ることが大好き。練習中も自然と笑みがこぼれます
下) アクロバティックな動きも取り入れます

築いてもらえたらいいですね」。

部でひととき存在感を示すのは、部長の船越あゆ美さん。幼稚園時代に短期ながらもヒップホップダンスを習い、小学生になるとアイドルの歌や踊りにのめり込みます。中学生の頃には「自分も踊ってみたい」という気持ちが膨らみ、ダンス部がある菊華高校に進学。「イメージしていたダンスとは少し趣向が違い、当初はやや戸惑ったりましたが」と正直な気持ちを打ち明けます。また、体が思うように動かず焦りを感じることもあったそうですが、持ち前の負けん気で練習に取り組み、みるみる上達。「今ではすっかり創作ダンスに夢中です」と笑顔をみせます。

社会で提起されているさまざまな問題をテーマに取り上げることもしくありません。昨年、船越さんたちの学年が披露したのは「いじめ」。いじめによって外部とのコミュニケーションを閉ざしてしまった人の苦悩や葛藤を表現しました。「一方では、恋や、ミュージカル映画のモチーフをピックアップしたりもします。そういった作品は明るくポジティブな印象を与えます」と、選択肢を幅広く持たせています。

現在は、毎年夏休みに開かれるダンスフェスに向けて作品づくりの真最中。歴史にちなんだテーマに対し



右) 本番に臨む前は皆で円陣を組んで気持ちを一つに。「いじめ」をテーマに臨んだ昨夏の「NFC・全国ハイスクールダンスコンペティション」ではソレイユ賞を受賞しました 左) 毎年秋になると、地域の行事に呼ばれ、ダンスを披露。写真は、区民が楽しんでいる「元氣まつり守山」



て、振り付けや衣装、選曲を詰めていきます。

昨年、船越さんは他校の作品を見て涙が止まりませんでした。「自分たちも、鑑賞してくださった皆さんの心を揺さぶるような作品を披露したい」と強い気持ちを持って、今年高校生活最後の大会に挑みます。「目標はダンスフェスでの入選・入賞」ときつぱり断言する3年生。菊華高校ダンス部の熱い夏が、動き出しています。

1 年生
今春の新入部員は18人（撮影時は17人）。どんなダンスが生まれるか楽しみです2 年生
コメディ・ミュージカル映画のワンシーンにテーマに選択して、観客を楽しませました3 年生
昨年度の発表会で披露した作品は「恋」がテーマ。白い衣装が目を引きます作品をつくるのは部員たち
自主性を重んじた指導方針

初代メンバーの有終の美を近くで見ている1年生が、現在の3年生。厳しい時期を乗り越えた8人が力を合わせて、部を盛り上げています。

創作ダンスとは、踊り手が自由にテーマを考え、それに合った楽曲を選択して踊るもの。「曲よりも前に決まっているテーマに合わせて踊るのが重要で、ヒップホップダンスやジャズダンスとはその点が大きく異なります」と田島先生。「鑑賞者にテーマの情景を想起させ、何かを感じてもらいたい」。芸術的な意味合

部長
船越あゆ美さん

「私たち3年生は今年の夏で引退。最後の大会で全力を尽くしたいので、作品の完成度を限界まで高めます」



上) 笑顔だけでなく、表情の切り替えも創作ダンスの重要なポイント 左上) 2年生は男女混合チーム。その特徴を生かした衣装や振り付け、フォーメーションを考えます 右下) 黄色いチームTシャツは全員おそろいです 左下) 1年生は、まだまだ基礎練習が続いています